

富山福祉短期大学/南砺市 地域連携(地域課題解)活動報告書	
南砺市担当課(連携自治体)	南砺市教育委員会こども課
担当者	荒井、村井、太田(ファミリー・サポート・センターアドバイザー)
富山福祉短期大学担当学科	看護学科
担当教員	稲垣 尚恵
担当学生(学年・学科・氏名)	看護学科1年生:浅野咲貴、M LU MAI、板倉風音、井上智恵、岩佐怜奈、WIN LAE LAE PHYU、WINT THANDAR PHYO、碓井 奈子
地域課題テーマ	南砺市の子育て世代の支援ニーズと地域社会のマッチング～「知ってる?ファミリーサポート事業」～
本テーマにおける目標	南砺市ファミリーサポート事業の利用率向上を目的とし、看護学生の視点から、子育て世代に限らず地域の様々な年代の方に伝わる周知方法を提案することを目標とした。
活動概要	南砺市ファミリーサポート事業を子育て世代に限らず地域の様々な年代の方に知ってもらえるような周知方法の提案とサービス内容がわかりやすく表示されたQRコード付きのポスター作成。
実施時期	2020年9月～2021年2月
上記地域課題テーマ設定の 合意に至った経緯	2020年8月31日 南砺市から本学富山コミュニティ論取組要望項目として「子育て世代の支援ニーズと地域社会のマッチング」という地域課題をご提示頂き、母性看護学担当教員として興味深いテーマであったため、学生とともにこの課題に取り組むこととした。9月、富山コミュニティ論の授業がスタートし、学生に取組テーマ案として提示したところ、全員合意に至った。10月1日:準備学習として南砺市の年齢3区分の人口構成割合を調べたところ、全国及び富山県と比較してもさらに少子高齢化が進んでいることがわかった。また、南砺市の総人口は右肩下がりに減少しているため、子どもが健全に育まれるように支援することは急務であると考えた。「健やか親子21(第2次)」について学習し、基盤課題「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」には地域で積極的に取り組む必要があるということがわかり、南砺市の子育て支援について詳しく調べた。その中で学生らはファミリーサポート事業に大変興味を持ち利用率向上を目指し対策を考えることとし、ファミリーサポート事業に焦点をあてて取り組むこととし、サブテーマを「知ってる?ファミリーサポート事業」とした。10月8日～15日:この経緯を南砺市の担当者に報告したところ、ファミリーサポート事業の利用率低速については南砺市としても検討課題とされており、取組テーマとして承諾を得た。
※時系列	10月末:学生が考えたファミサポ利用率が低い理由(★)とその対策案(→)をまとめ南砺市担当者に報告した。南砺市担当者から回答(>)があり、学生と南砺市双方の見解から実現可能な対策としてポスターを作成することとなり、QRコードの添付など助言を頂いた。 ★3世代同居の世帯が多いのではないかと、子供の祖父母が同居か近くにおり、いざという時には支援が受けられるので、ファミサポの優先順位が低いのではないかと?→妊産婦174人中、34.5%が現在核家族+15.5%が現在夫と妊婦の2人世帯、3世代同居は32.2%であり、核家族世帯が多い。決して子育て体制の支援が不要ということはなさそう。→地域の方とのつながりがあることは、地域全体で子を見守ることになり、それが広がり、当たり前感覚になれば、母親やその家族は安心して地域で子育てできるのではないかと? >ご指摘のとおり、「顔の見える・顔が分かる距離感」の地域在住の高齢者がサポーターになってもらえることは、依頼者・協力者双方にとって望ましく、積極的な制度周知等に向けた取り組みが必要だと考えています。 ★家族以外に子供を預けることに抵抗があるのではないかと?子を預ける場所では保育園が最も多く、ファミサポでは保育士や看護職以外の無資格の人に預けることもあるため、子供の安全面に対する不安があるのではないかと?→サポーターが受けている研修とその内容、サポーターが強みとしていることが明示されていたらよいのでは? >原則として、お子さんを預かる際に、サポーターから保護者に対して研修を受講している旨を伝達することになっています。ただし、研修の詳しい内容や各サポーターの強みなどを伝えるまでには至っていません。サポーターには、保育士や教職員経験者や保育・学校支援員などの実績のある方が多いため、そのような利用者の安心安全につながる資格等の情報について、分かり易く伝えられる仕組みがあることが望ましいと思われます。 ★ファミサポの存在は知っているが、どんな人がサポーターなのか知らないから不安なのではないかと?どんな時に利用できるのかまでは知られていないのではないかと?→サポーターマークを作って、サポーターの自宅の玄関ドアや表札に貼る。サポーターをしている人がわかる。意外と隣のおばさんがサポーターで、安心するかも。→サポーター一覧表(顔写真・連絡先入りの物)を中学生までの子供がいる各家に配布する。サポーター各自が、サポート専用の携帯電話を持つ。利用したい時に、直接連絡、交渉できる。どんな時に利用できるかを明確にするよ。 >サポーターマークの玄関先等への掲出や一覧表への顔写真・連絡先の掲載はサポーターの皆さんの理解協力が必須であり、個人情報でもあることから、強制は難しく、利用者の求める情報をすべて網羅することは困難かと思われます。また、サポーター専用の携帯電話の手配についても、費用対効果の面から実用は困難かと思われます。 ★1時間600円は高いのではないかと?→ワンコインでできないかと?これに反して、1時間600円は安過ぎで、逆にきちんと子供を見てもらえないのでは?見合った報酬があった方が、預かる側も預ける側も気兼ねなくできるのでは?という意見もあった。 >サポーター対象アンケートでは「料金が安すぎる」「2日目で降半額になるのはおかしい」という意見が寄せられています。実際に最低賃金(富山県では令和2年10月から時間給849円)の額よりも低く、安過ぎることに不安を覚える利用者もおられるようです。一方、お子さんを預けるニーズの高い保護者にとっては、安いに越したことは無いという側面もあるかと思われます。いずれにしても依頼会員とサポーター双方にとって利用満足度の高い制度となるよう、適切な料金設定を心がけていく必要があります。 ★パンフレットの設置をしても手に取ることは少ないのでは?→ポスターの方が通りがかりや何かの待ち時間などに目に入りやすい。保育園よりも、会社や病院にポスターやパンフレットを設置した方が良いのでは?→受診した母親や家族が見る、病院で働く職員が目にも入りやすい。特に看護師は不規則な業務をしており、急に休めないため、ファミサポを知ってもらうのは良いのでは。 ★子育て世代だけでなく、その親世代、これから子育て世代になる10代後半の世代にも周知は必要なのではないかと?→回覧板、地域の広報誌、大学や専門学校へのポスター掲示も良いのでは? >病院の待合室や会社などへのポスターやパンフレットの掲出や設置は有効な周知方法だと思います。必要な情報が端的にまとまっていて、かつ初めて見る人にも制度概要が分かり、さらに人目を引くようなデザインのものが見たいと思います。ポスターやパンフレットにQRコードを付して、そこから気軽に会員登録ができるような仕掛けも有効かと思われます。同時に地域の広報誌等への情報提供フォーマットや将来の子育て世代にも連
活動時の双方における 検討・確認概要	
※時系列	
活動(成果)報告書	別紙(富山コミュニティ論実施報告書)
本連携事業における評価概要	制度の周知度および利用ニーズと比較して利用率の低いファミリー・サポート・センター事業の周知について、分かり易く効果的な方法の考察・検討・提案がなされた。
本連携事業の地域への フィードバック体制	制度内容を端的かつ分かり易くしたポスターにQRコードを付し、詳細情報について誘導する仕掛けを含め、今後の制度周知・啓発啓蒙の手法として前向きに検討していきたい。
本事業実施終了後に おける所感 (南砺市)	・南砺市の現状把握から初回提案、意見交換、再提案まで、効率的で円滑なやり取りができた。南砺市側の考察結果や意見等を真摯に汲み取っていただき、実現可能で有効な提案をいただき感謝しています。 ・今回の連携事業に伴い事業実施にかかるヒントをいただきました。「利用者の声を載せたい」「協力会員の紹介(どんな方がどれくらいいるか、どんな研修を受けているか等の情報発信を含む)」「登録・依頼がネットから出来たら良い」など、今後の事業実施に向けた課題にも気づかせてもらったことも本事業の収穫だと感じています。
本事業実施終了後に おける所感 (富山福祉短期大学)	1年生であり子育て世代のニーズという課題は難しかったが、調査を進めるうちに近い将来子育て世代になり得る自分達にも大いに関わる課題として、学生1人1人が真剣に真面目に取り組んでいた。また、学生ならではの視点や違った角度からの意見が出て、今後のサービス向上につながることもあったと感じる。今回はポスター作成と周知方法の提案にとどまったが、今後も利用率向上やサービス向上の一手となるような取り組みをしていきたいと考える。